

// 恒例 // 2006 秋の研究交流会 ご案内

# あらためて考えてみませんか 私たちの研究・教育条件

## 小規模研究室を守り充実させるために

矢ヶ崎 克馬 (理学部教授・(日本物理学会)物性委員会幹事)

国立大学の法人化以来、旧制度で育成され満遍なく存在してきた「小規模研究室」では、教育研究費が確保できなくなりつつあります。それは、研究教育費の配分原理を「競争と評価による」という原理に変更したことによります。同時に、運営費交付金の削減や学内での競争的な資金配分により、研究者が受け取る基盤的研究費は激減しています。琉大でもそれは深刻な事態であり、理学部で研究者に配分される基盤的経費は従来の 1/5 にも減少しました。一部の分野に COE などの過重点配分がある一方、学部や大学全体の教育・研究は危機に瀕しており、大学教育全体の維持発展、学問の全面的発展は困難です。科学技術政策として見直しが緊急に必要です。

私たちが実際に体験していることであり、仲間内でよく聞く論調ではありますが、あらためて、基盤的研究費がいかに重要か、小規模研究室がどれほど研究・教育に役立ってきたかを、学術会議の委員としてのとりくみに立って、実証的に話していただきます。これは、日本物理学会年会(2006)で開催された第30回「物理学者の社会的責任」シンポジウム「国策としての科学の現在と将来」での報告などの、エッセンスです。

## どうなっている？ ロースクールの教育・研究・評価

徳田 博人 (法務研究科教授・行政法)

9月21日、初めてのロースクール就学者対象の新司法試験の合格発表がありました。大学ごとの合格者数・合格率が公開され、新聞では早くも「来年以降は序列化が一層進むとみられ、法科大学院の淘汰が現実味を帯びてきた」(毎日)などと報じられています。

合格者の数と率という単純・明快な基準だけで改廃にもつながる評価に晒されるロースクール。大学への競争原理導入の典型的な組織ですが、その分、研究・教育態勢は通常の部局よりも恵まれているのだろうと考えがちです。ところが、そうではないのが実態。では、ロースクールを置くメリットは…?

現場で指導にあたる徳田さんに、お話しいたします。

**日時 10月13日(金) 18:00～20:20**

**場所 琉球大学理学部 105 教室**

(理学部棟1階、生協がわから入ってスグ) 入場無料

\*終了後、懇親会を行います。研究交流会・懇親会ともどなたでもご参加になれます。会員・非会員を問わず、皆さんのお越しをお待ちしています。

---

**主催：日本科学者会議 (JSA) 琉球大学分会・JSA 沖縄支部**

代表幹事：武居洋・加藤祐三 (琉大名誉教授)、新垣進 (琉大法文学部)

問合せ先：事務局長・堺英二郎 〒903-0213 琉球大学理学部内 Tel/Fax 895-8518 メール okinawa@jsa.gr.jp

ホームページ：全国 <http://www.jsa.gr.jp> 沖縄 <http://www.jsa.gr.jp/okinawa/>

JSA は人文・社会・自然科学を総合する、日本で唯一の分野横断的な学会です。大学・研究所の研究者・教員・院生のみならず、技術者、医師、弁護士、高校教諭、NGO メンバーなど、科学にたずさわる人が広く参加しています。JSA は日本の公害・環境運動の先駆けの役を果たし、今も、自然環境保全、科学者の倫理と権利、憲法や平和の問題、大学政策など、多様な問題に積極的にとりくんでいます。

会費(月額)は、一般 850 円、院生 350 円(月刊の会誌代含む)です。どうぞご入会ください。